

平成29年4月 議会報告会での要望及び意見に対する回答

No.	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
1	三木浦	旧町内の保育園は整備されているが、幼稚園はほったらかしではないか。	三木幼稚園については、現在検討している小学校の統合と合わせて施設の在り方を検討することとしておりますのでご理解をいただきますようお願いいたします。	教育総務課
2	三木浦	三木小と三木里小が統合と三木幼稚園は一体整備と聞いているが、そういう理解で大丈夫か。	お見込みのとおりです。	教育総務課
3	三木浦	火事になり廃墟になった鉄骨造りの建物が放置されており、非常に危険な状態。市民サービス課に要望しているが応じてもらえない。	市民サービス課には、ご指摘のような住宅等に関する情報・苦情が多数寄せられており、また、今後も増加するものと考えています。このような「特定空家等」に対する基本的な考え方として、現時点では、特定空家等の適正管理について、所有者(管理者)に対して早急な対応・対策を講じるよう連絡(文書及び電話等)を取るなど、今後も空家等特別措置法に基づいて適切な措置を講じていきたいと思っています。	市民サービス課
4	三木浦	九鬼の集落支援員に係る動きは区長会の方でも聞いていない。情報の開示、共有を。	集落支援員につきましては、本年10月からの導入を目途に設置要綱や募集要項等の作成を進めているところですので、決定次第、区長会の皆さまに情報提供をさせていただきたいと思っています。	市民サービス課
5	三木浦	地域おこし協力隊の要望を出しているが、この地域に継続して住み着いてくれる人がほしい。可能ならば家族で来てほしい。	地域おこし協力隊の任期は、最長3年と決まっています。現在、地域おこし協力隊の人材確保については、他市町村も含め難航しているのが現状です。3年後にその隊員が自立し、地域に定住していただけるような「ミッション」を三木浦町の方々と一緒に考え、1人でも多くの方に応募していただけるように努めていきます。	市長公室
6	三木浦	ふれあいバスについて、三木浦、三木里間の通院、通学(下りの自動車)用の便が無いので方策を。	現在、八鬼山線とハラソ線については、それぞれ一台の車両で運行をおこなっており、また、検討を進めている運行ダイヤにつきましても、要望の強いJR特急列車への接続を中心としております。こういった状況から、三木里・三木浦間につきましては、輪内地区で運行しているスクールバスへの混乗について検討しているところではありますが、スクールバスについては、学校教育活動に利用されるべきものであることから、利用に向けて関係機関と慎重に協議を進めているところでもあります。	市長公室

No.	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
7	梶賀	移住者を増やすために、仕事を斡旋できるような仕組みの整備を。	仕事の斡旋につきましては、法律上ハローワークしかできません。当市としては、3月1日に開設した「おわせ暮らしサポートセンター」と連携しながら、事業所の紹介をする「しごとバンク」の創設、また、後継者がいないことにより廃業を考えている方の事業を起業希望者に対して引き継いでいく「継業」の取り組みなど、合せて移住希望者に対し、情報提供するため、尾鷲商工会議所の協力を得て、基礎調査を進めていきたいと考えています。その他「移住体験住宅」など移住に関するサポートも行っています。	市長公室
8	梶賀	コミュニティセンター裏へ山へ逃げる避難路(階段)の整備を要望しているが進展がない。	梶賀地区においての「理論上最大クラスの南海トラフ地震」による津波の浸水想定は13メートルであり、避難路の整備につきましては、区長や地域住民と協議を重ねて検討して参りました。今回要望のあったコミュニティセンター裏山への避難路整備につきましては、場所が土砂災害警戒区域で急傾斜ということもあり、管理者である三重県建設事務所、梶賀区長、防災危機管理室等関係機関を交え現在も協議中であります。	防災危機管理室
9	倉ノ谷	医師1人にどの程度の費用が必要なのか。(手当の内訳など含めて)	常勤医師14名の平成29年3月分平均給与支給額は1,723千円で、その内、手当分として1,183千円を支給しており、主なものとしては、特殊勤務手当772千円のほか、時間外勤務手当、地域手当等であります。	総合病院
10	倉ノ谷	担当医に慣れた頃に、1年程度で転勤してしまうので改善を。毎年、変わっているように思う。注射一つとっても各医師で方針が違うので患者は戸惑う。	医師の赴任期間については、1年程度となっているのが現状であります。転勤の際は、途切れのない継続した交代医師の派遣をしていただいております。また、尾鷲総合病院に赴任後、転勤となった医師が、救急医療体制維持のための宿直応援など、ご協力をいただいているところであります。	総合病院
11	倉ノ谷	かなり前から空き家になっている家屋がバイクが朽ちていたりして荒れ放題なので何らかの対策を。	市民サービス課には、ご指摘のような住宅等に関する情報・苦情が多数寄せられており、また、今後も増加するものと考えています。このような「特定空家等」への対策として所有者(管理者)を調査した上で、特定空家等の適正管理について、依頼したいと思っておりますので住所をご連絡いただければと思います。	市民サービス課
12	倉ノ谷	元市営住宅の敷地が雑草などが伸びて荒れているので管理を。そこに車を駐車する住民もいるので不公平感がある。土地売却など考えては。	元市営住宅地内の除草については、現地の状況を踏まえ、予算の範囲内で実施しております。しかし、十分でないとお声も頂戴しておりますので、現在、試験的ではありますが防草シートを敷設するなど、良好な生活環境の確保に向けて対応を進めております。また、駐車場として利用している件に関しましては、注意喚起を行うほか、土地に関しましては、今後、市営住宅のあり方などを検討する際に、適正な配置や土地の利活用を含めて協議してまいります。	建設課

No.	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
13	倉ノ谷	市営住宅で長い間、使用されていない部屋があるが、防災用の備蓄倉庫として活用しては。	利用を控えている市営住宅に関しましては、耐震性が確保されないなどの理由で入居不可となった住宅であり、防災用の備蓄倉庫としての活用には適しておりません。防災用の備蓄倉庫といたしましては、各自主防災会が管理されています防災倉庫をご活用いただきますようお願いいたします。	建設課 (防災危機管理室)
14	倉ノ谷	国道42号線の交差点の地下道が汚い。市に依頼して一度清掃してもらったが、またすぐにゴミが捨てられ汚れているので対策を。	倉ノ谷交差点の地下道につきましては、これまでもゴミが放置されるなど、ご利用になる皆様から清掃のご依頼やご要望をいただいています。この地下道は学生の通学路でもあり、安全で清潔な環境の整備に努めてまいります。	建設課
15	倉ノ谷	庁舎内が暗い。LEDにしては。	庁舎などに使用されている照明設備のLED化につきましては、省エネ効果等も含めて検討してまいりましたが、LEDをそのまま現在使用中の設備に使用することができず、一般的には設備の取替えや、設備内部の工事が必要となります。一部工事不要のLEDなども販売されてはおりますが、既設の安定器(設備内部の機器)をそのまま使用する為、経済性に乏しく、安定器の寿命が先に来てしまうことから、こちらにつきましても取替工事が必要となってきます。また、製品によっては健康被害のトラブルも報告されております。 高額であったLEDも近年安価となってはいるものの、工事や設備の取替えを考慮すれば、現在庁舎の耐震化や建替を検討しているなか、慎重に検討しなければならないと考えております。(平成13年度の全面的な庁舎照明器具取替工事188ヶ所3,780千円)	総務課
16	倉ノ谷	町内の市道で私有地の関係で狭い箇所があるので不便で危険。市から要望するなり、用地買収するなりしてもらえないか。	本市内には倉ノ谷地区に限らず、狭小な道路などが数多く存在しているため、市民の皆様から様々なご要望を頂戴しており、その都度可能な範囲で改良が可能なかを協議しております。しかし、民間の用地を取得するような改良工事を行うためには、予算の確保に加え、用地買収等の調整も必要であり、困難である場合が多くありますが、ご意見をいただきました箇所に関しては、担当課にて現地を確認させていただきます。	建設課
17	賀田	救急医療体制(24時間)が維持できなくなることはあるか。	救急医療体制につきましては、三重大学医学部附属病院、伊勢赤十字病院、紀北医師会などのご協力を得て維持しているところであります。救急医療体制を維持するためには、一定数の常勤医師や非常勤医師をはじめ、看護師等医療従事者の確保、また、患者を受け入れるための病床数や医療機器等設備も必要となり、これらに伴う人件費や修繕費などの費用が継続的に発生することになります。今後、人口減少が見込まれるこの地域において、救急医療体制に限らず、これらの費用に見合った医業収益が得られるのかどうか、病院の規模、機能、役割分担などについて、いずれ検討すべき時期がくるのではないかと考えております。	総合病院

No.	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
18	三木里	三重大学医学部への尾鷲市から推薦した学生は総合病院に必ず戻ってくるのか。違う場合、必ず戻って来てもらえるような方策を尾鷲市として考えてほしい。	三重大学医学部の特別推薦「地域枠B」の医師は、初期研修期間2年間のうち8ヶ月間は尾鷲総合病院で研修することになっており、研修期間中の指導体制の充実に努めているところですが、研修終了後は本人の意思により選択することになります。市の方針としましては、医師の養成に限らず、尾鷲に愛着を持ち続け、地元尾鷲のために働きたい、貢献したいと願う人材の育成に努めるとともに、子育て環境の充実や生活環境の整備を図ってまいります。	総合病院
19	三木里	輪内中の入学生が2人と聞いた。(教育委員会の説明ではこの世代は輪内中に30人程度入学ということだった。)校舎を新築して2年だと思うが、この状況を踏まえ、今後どのような施策、計画を考えているのか。	輪内中学の学区内における新1年生は7名ですが、市外をはじめ他地区への学校へ入学された方が多かったことから輪内中学への入学生が2名となりました。教育委員会といたしましては、地区の子どもは地区の学校に通っていただきたいと思しますので、中学校の魅力化と小学校・中学校の連携を今以上に行い、輪内中学校を地域に根ざした学校にしていきたいと思します。	教育総務課
20	三木里	小学校、中学校の統合は出来ないのか。	現時点での小中統合は、施設面での課題も多く難しいと考えます。しかし、小中一貫したカリキュラムでの小中学校教育の推進は可能です。	教育総務課
21	三木里	特色ある学校作りを進め旧町内から入学生を呼べるような方策を。旧町内に統合されるのではなく、輪内の学校を使っていけるように考えて欲しい。	現在検討している三木小、三木里小の統合においても北輪内地区に特色ある学校を残したいというコンセプトで取り組んでおります。他地域からも入学できる小規模特認校制度などを活用した学校なども考えていきたいと思します。	教育総務課
22	三木里	輪内に関する教育現場の再編に係る情報は特定の人間だけでなく、誰にでも伝わる形で積極的に開示を。	現在、学校づくり協議会を両地区のPTAや地区会の代表に参画をいただき進めており、これらの情報も各地区にはお伝えしてまいりたいと思します。	教育総務課
23	矢浜	防災関係の避難タワー、庁舎の建て替えが進んでいないが、平成29年度に関係予算はないのか。町の中心の生活圏にある今の場所に工夫して、市役所、体育館、中央公民館などが集合したものを建てるべきではないか。	矢浜地区における避難施設建設につきましては、平成29年度予算化はされておりませんが、30年度以降に建設予定でありますので平成30年度以降の予算となります。	防災危機管理室
			当初予算には計上されておりませんが、今後、市役所庁舎及び体育館の耐震診断を実施する予定となっており、この耐震診断の結果をうけて、建替えや耐震化を検討してまいります。その結果、庁舎を建て替えることとなれば、ご提案のとおり中央公民館などの施設も含めた複合庁舎や他の機関も含めた合同庁舎などの検討も必要になってくると考えております。	総務課

No.	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
24	矢浜	津波の避難所としてエディオンの駐車場をお願いしていたが、一体どこまで話が進んでいるのか。安全な避難できる高台を増やしてほしい。	エディオン尾鷲店の駐車場につきましては、平成28年10月17日にエディオン尾鷲店を通じエディオン本社に大規模災害時における駐車場の一時使用に関する協定締結に向けて現在調整中であります。 進捗状況につきましては、エディオン尾鷲店から現在本社にて協議中でありもう少し時間を頂きたいと連絡ありました。 なお、その他の緊急避難場所等についても現在協議を進めております。	防災危機管理室
25	矢浜	現在の防災マップの表示の仕方は混乱のもとになるので、直すべきとの意見を出しているが、何度言っても統一されない。 (標高と海拔、避難ビル、収容避難場所など)	平成26年3月に三重県が公表した「過去最大クラスの南海トラフ地震」及び「理論上最大クラスの南海トラフ地震」による津波浸水想定。 平成26年12月には三重県が指定した土砂災害警戒区域指定に伴い平成27年4月に広報と併せ津波ハザードマップ・土砂災害ハザードマップの全戸配布を完了しました。標高と海拔標記につきましては、順次海拔標記に統一していきます。 また避難ビルや収容避難所については、尾鷲市HP内で誤りについては訂正し、新たにハザードマップを手渡す場合においては正誤表をお渡ししております。 今後も皆様の意見をと入りながらより分かりやすいハザードマップに修正し、防災意識の向上に努めていきたいと考えております。	防災危機管理室
26	矢浜	基金の残高が相当減っている項目があるが、これは他に回す為にやむを得ずなのか、事業が頻繁にあつてこうなったのか。	基金は、年度間の調整的役割を果たす財政調整基金と、特定目的を達成するために設けている目的基金に大別され、目的基金において残高が減っているものについては、該当事業実施のために取り崩しております。また、基金の設置目的が形骸化していたもの、又は、時限的に基金を設置しなければならなかったものについては、必要に応じて廃止し、国等の財源を基に設置した基金以外で基金残高があるものについては、他の基金へ積み直しをしております。	財政課
27	矢浜	長期債務が多いが、どうやってこの借金を返していく工夫を職員の皆さんがされているのか。返済計画があるとは思いますが、何年後位に返せるか想定はされているのか。	長期債務とは地方債残高を指していると思われませんが、将来負担を軽減するために、後年度の元利償還金に対する交付税措置率の高い地方債の選択、決算剰余金がある場合には、減債基金への積み立てを行っております。 地方債の借入れについては、それぞれの貸付対象事業毎に償還期間が定められており、減価償却年限を上限として借入れを実施し、償還計画表において公債費の年度間償還額を管理し、特定年度に償還金が重ならないようにしております。市において普通建設事業を実施するにあたり、全ての事業費を単費で賄えれば地方債の借入れは当然必要なくなり、将来負担も発生しません。資金的に大変困難であること、また地方債には、資金手当てという側面の他に将来負担の公平性がありますので、それらを考慮すると地方債がすべてなくなることはないと考えております。	財政課
28	矢浜	矢浜保育園、第三保育園の藤棚は、今後どうするのか。移植するのか、枯らすのか。	旧矢浜保育園及び旧尾鷲第三保育園は、津波浸水域に立地することから、以前より津波避難タワーの建設候補地になるなど、その利用について検討が続けられてきましたが、結論には至っておりません。したがって、ご質問にあります藤棚につきましても、対応は決まっております。	福祉保健課

No.	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
29	矢浜	歩道の真ん中に立っている電柱の撤去に3年かかっている。歩道の橋を架ける時に何故、撤去しておかなかったのか。	本件に関しましては、本市といたしましても関係課で協議調整を図ってまいりました。 現在、安全に歩道を通行していただけるように、その電柱の所有事業者などや、これに関係する機関と協議を実施しております。今後は、その改良に向けて速やかに事業を推進してまいりますのでご理解のほどお願いいたします。	建設課
30	矢浜	現在の矢浜小学校の津波避難ルートがはっきり分からない。以前は尾鷲中学校のグラウンドを通っていたが、今は小学校のグラウンドから上へあがって、以前より遠回りしている。もっと早く安全に避難できるルートを確保すべきではないか。	津波避難ルートについては、地震発生時を想定してより安全で迅速に避難できるルートを検討しながら進めております。現ルートにこだわらず、今後も児童の避難にとってより良い方策をめざし、改善検討を進めてまいります。	教育総務課
31	矢浜	市役所の駐車場に公用車(トラック等)が停まっている。市民(来客者)のための駐車場ではないのか。	イベント時や庁舎外での作業が発生する業務で、準備物などの搬入搬出の為、一時的(1日～2日程度)に駐車場を使用することを許可しているもので、長期間となる場合は、その日の作業終了後は所定の駐車スペースに駐車することとしております。	総務課
32	須賀利	「災害時における避難行動要支援者の支援に関する協定」について具体的に説明してほしい。どういう関係者との締結なのか。	これは、三重県(三重県聴覚障害者支援センター)と尾鷲市が締結した協定で、協定の内容につきましては尾鷲市が平常時から避難行動要支援者(聴覚の部位に障害を有する者)の名簿をセンターに提供します。そして尾鷲市に地震、風水害やその他による災害が発生した場合、センターは聴覚障害者災害支援サポーターとともに、同名簿により聴覚障がい者の安否確認及び避難所支援等を実施するという内容でございます。	防災危機管理室
33	須賀利	公衆トイレの所に避難階段を数年前からお願いしており、今年度も少しだけ着手してくれる事になっている。各地区ごとの防災の予算が30万円だけで13m程の避難階段の完成が5・6年かかる事になると業者に言われた。そうすると、防災にならない。建設の予算で何とかならないのか、と建設課にも話をしたら、防災の係長とも相談してみるとの事で、何とか建設課の予算がついてくれればいいが。	避難階段に関しましては以前より須賀利区からはご要望をいただいております。防災危機管理室や建設課などで、市民の安全安心を推進するために、早期整備に向けて協議を行っておりますので、ご理解とご協力のほどお願いいたします。	建設課 (防災危機管理室)
34	須賀利	堤防の工事をしてもらっている時、テトラポットを並べてあったが穴が開いていたので業者がその数を少なくしてしまった。台風時期になると、それまでテトラポットで止まっていた流れものが防潮扉へ当たってしまうので、テトラポットを以前のように置いてもらいたい。	当該要望箇所に於いては、平成25年度繰越事業で防波堤の機能保全工事を実施した際に、消波ブロックの移設を行いました。撤去などは行っておりません。また、移設した消波ブロックの設置箇所は現場状況や健全な漁港管理面から判断設置しましたが、台風などの荒天時には現況の変化により、流木等が漂着するものと考えます。流木等の処理については、ご連絡を頂きましたら水産商工食のまち課にて対応を致しますので、よろしくお願い致します。	水産商工食のまち課
35	須賀利	老人の人が認知症予防に体操をしたいと言っている。月に1回コミュニティーセンターでやっているものもあるが、階段をあがっていかないといけない場所があるので。低い所で場所を確保して、週に1回位の割合で体操できるようにしてもらいたい。	尾鷲市では、高齢になっても健康で生き生きと在宅生活ができるよう、健康教室のほか、介護予防や認知症予防などの教室を各地区で実施しています。実施場所につきましては、設備面を考慮し、コミュニティーセンターを中心に実施しておりますが、地区の方が利用しやすい他の場所があれば、検討させていただきたいと思っております。なお、須賀利小学校体育館につきましては、設備の安全性の理由から、使用が困難な状況にあります。	福祉保健課

No.	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
36	須賀利	尾鷲ではお年寄りの方に100円引きでお弁当の配達をしているが、それを須賀利でもできないのか。	調理が困難な高齢者に見守りを兼ねて弁当(夕食用)を配達する「食の自立支援事業」は、尾鷲市が市内4事業者に委託し、対象となる高齢者宅を週3回訪問しています。事業者は昼と夜の営業の間を利用して配達を行っており、須賀利地区への配達につきましては、要する時間等の関係で、協力いただける事業者がなく、実施できていないのが現状です。 今後につきましては、利用希望者や協力事業者の状況を含め、検討を続けさせていただきたいと思っております。	福祉保健課
37	須賀利	(ふれあいバスの直行便が今回1便だけ案を示してもらえた事を区長が話した事から) 行き直行便のみしかないのは、不便。せつかつなら往復便にしてもらいたい。	ふれあいバス須賀利線におきましては、地区の強い要望により、午前の一便に限り、島勝線への乗り換えなく直接尾鷲総合病院へ降車可能で、且つ受付開始時間に対応できるダイヤ改正に向け準備を進めております。加えて、このダイヤ改正に併せ、島勝地区の桂城郵便局への利便性を高めるべく、利用後の待ち時間を短縮することを目的とし、郵便局利用者向けの復路便を3便、増便する準備を進めております。しかしながら、この増便対応により尾鷲総合病院前からの直接の復路便については、1台のバスでは改正するダイヤの面から対応が難しく、従来どおり復路については島勝線との併用による利用をお願いしたいと考えております。	市長公室
38	須賀利	桜公園の下に住んでいるが、急傾斜地工事で山の斜面を工事してもらったが、その下の側溝に蓋がされていないのでゴミがたまっている。夏に下の道路沿いの草刈りをする際に、上の方の道路も一緒にしてもらえないだろうか。	側溝の清掃に関しましては、市の管理する側溝であるかを現場確認させていただき、その実施時期などを含めて検討させていただきます。	建設課
39	古江	尾鷲中学校に給食がないのは何故なのか。	給食実施については、10年ほど前に実施に向けた検討を行い、保護者等へのアンケートもとり、民間事業者からのデリバリー給食なども検討いたしました。当時、事業者が見つからなかったことなどから、給食実施には至っていない状況です。	教育総務課
40	古江	伊賀上野では、給食の器に芭蕉の俳句が入れられていて、食だけでなく、俳句文化の教育にもなっていると、新聞記事に書かれていた。尾鷲もそのような取組みを食育に繋げるべきではないか。	本市では、尾鷲の食材を使った給食メニューや地元の魚に関する体験学習などを通して食を学んでもらっております。ご意見をいただいた食文化についても学んでいきたいと思っております。	教育総務課

No.	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
41	古江	予算がないと言われている中で、保育所の新築が多いのではないのか。輪内中学校は今年の入学者が2名、三木里小・三木小の統合問題など教育に関してのお金の使い方が腑に落ちないところがある。人を育てるという事に関してもう少し長期的な目で考えてほしい。お金が有り余っているわけではない中で、また第4保育園の予算があり、尾鷲市はどう考えているのか。熊野市は保育園を無料にした事で入園者が増加しているが、尾鷲市も箱モノではなく、保育園の費用を少なくするとか、人が増えるような取組みを考えているのか。	尾鷲市では、子育て支援の中心となる保育事業について、児童に安全・安心な保育環境を提供するため、「尾鷲市保育所整備基本計画」に沿い、津波浸水域に立地する保育所等の移転整備を行っています。矢浜保育園及び尾鷲第三保育園は移転整備はすでに完了し、尾鷲第四保育園の整備で計画は完了となります。児童に安全・安心な保育環境を提供するための整備ですので、ご理解をお願いいたします。 また、尾鷲市では、「子育てしたい・しやすいまちづくり」を通して、定住・移住につなげるため、市民との「子育てまちづくり座談会」の開催や市役所内の連携強化などに取り組み、「子どもの居場所づくり」などに取り組んでおります。今後も子育て支援を一層充実させるための施策や、子育て支援のワンストップ拠点となる「子育て世代包括支援センター」の設置などに取り組んでまいります。	福祉保健課
			小学校の統合については、小規模であっても海・山が周りにある特色ある地域での教育が残せないかという視点で取り組んでいるところであり、このことを通し、移住・定住へもつないでまいりたく、ご理解をいただきたいと思っております。	教育総務課
42	古江	新しい企業誘致の計画はないのか。尾鷲は好きで、できれば帰ってきたいが、働く場所が無いという若者の声もある。	現状、具体的な新しい企業誘致の計画はありませんが、雇用面では、誘致企業も含め既存市内企業において、随時、ハローワーク等を通じて採用募集がされております。	水産商工食のまち課 (市長公室)
43	古江	中央公民館へ税金の申告に行った時に、トイレの便座が昔の冷たい便座が使われていたが、お客さんが使うところなので、なんとかならないのか。	現在、中央公民館には1階から3階までのそれぞれの階にトイレを設置しておりますが、各階とも、男女とも水洗、和式1基、洋式1基の配置です。そのうち、洋式1基は、暖房便座、ウォシュレット仕様となっています。ご指摘の時は、清掃の際に暖房便座のコンセントが抜けているなどでスイッチが入っていなかったかも知れず、今後、毎朝の点検等を心掛けていきます。	生涯学習課
44	大滝	清掃工場を広域でという話が前々からあったが、場所はそろそろ決まっているのか。	広域ごみ処理施設整備につきましては、関係5市町で構成する新ごみ処理施設整備検討会議等で検討を重ねており、候補地の選定についても協議を進めているところであります。	環境課
45	大滝	名古屋から尾鷲へ戻ってきたが、魚は安いとは思わない。スーパーで見ても名古屋のスーパーと値段は変わらない。名古屋とどこが違うのか。魚のまちだろう、というイメージが持てない。どうやって尾鷲を活性化していくのか。	市内で販売される地魚については、鮮度や魚種の豊富さの面では、都市部の量販店等とは違いがあり、市では、これら地魚等の料理を提供する飲食店をパンフレットで紹介PRする「よいとこ定食の店」の取り組みを行っています。また新たな食の産業開発として、地域資源を活用した特産品や料理メニューの開発セミナーを事業者向けに開催するなど、今後も魚介類をはじめ地域資源の利活用促進を図りながら「食のまち尾鷲」として、地域活性化を推進してまいります。	水産商工食のまち課

No.	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
46	大滝	情報発信が少ないと思う。市役所の中でも地元紙やワンセグでこんな事をしている、こんな事をしたという情報を流すべき、市役所がしている事が目に見えない場合が多い。まず、地元の人が自分のまちの情報を知り発信することが必要。	現在、本市におきましては、「広報おわせ」「ホームページ」「エリアワンセグ」にて情報発信を行っております。ご意見のとおり、市民一人ひとりが「おわせ応援団」として尾鷲の情報発信を行っていただけるように、今後も各媒体の特色を活かし、市の取り組みやイベントの告知など、より市民にわかりやすい情報発信に努めてまいります。	市長公室
47	大滝	随分、自治会への加入者が減っており、そんな中で防災をどんなふうと考えていくか、が一番心配である。非常に高齢者が多い中で我々はどう動いていくのか、がもう一つはっきりしていない。自主防災会とかの研修で勉強する機会が増えてきているが、あくまでも自主なので市全体として我々市民がどう取り組むのか、が見えにくい。小さな自治体単位とかの中で我々がどう生き延びていくのか、うまくできていない。多くの自治体には力がないので、そこを何とか助けてもらえる方法がないのか。	必ずしも「自治会＝自主防災組織」ではなく、自治会があっても自主防災会が組織されていないこともあれば、自主防災会のみ組織されている地域もあります。尾鷲市自主防災会連絡協議会としましても自主防災会未設置地区の掘り起しは数年来の課題となっております。災害時には十分な公助をおこなうことが困難であることが想定されていることから、自助・共助が必要となります。年に1度実施しております尾鷲市防災訓練への積極的な参加や、平時から避難訓練や炊き出し訓練、資機材の取扱い訓練などを実施していただき、地域における防災力の向上をお願いしています、訓練の際に防災危機管理室にご依頼いただければ職員の派遣も実施しております。	防災危機管理室
48	大滝	自主防災会の補助金の枠が少ないので、自治会で取り合いになっている。また、使い道が防災倉庫の備品と限定されているので、住民啓発とかを各自治会でやっていけるように使途を広げてもらえないのか。	尾鷲市地域防災力向上補助金につきましては、平成24年度から3ヶ年の共創事業として始まり平成26年度で最終年となる予定でしたが、27年度以降も継続して事業を行えるよう予算要求を行いました。過去の実績や尾鷲市の財政状況を勘案し、36団体に対する補助となりました。また、補助金の使い道につきましては、尾鷲市地域防災力向上補助金交付要領において、補助金の対象となる事業について定めており、防災意識の普及促進を図る事業として啓発物品、パンフレット等に関する費用についても認めております	防災危機管理室
49	曾根	数年前の9月に30cm冠水した関係で要望しているが、311号、堤防の下を通っている3本の排水溝が、十分に排水溝として機能していないと思われる。業者に強い水圧で水を流してもらったら、しばらく溜まり、しばらくすると浸透していくという状態で、改善するには300～400万円位掛かると言われた。曾根区としては、ちゃんとした水はけの機能を確保してもらいたい。	本件に関しましては、以前よりご要望をいただいております。雨水等のスムーズな流れを確保するために側溝の清掃を実施しております。今後も台風時期や梅雨などの降水量が多い時期に合わせて、清掃を行い排水機能の改善を行ってまいります。	建設課
50	曾根	津波が来て浸かる場所の人が手ぶらで逃げられるように高い所に自分の必要な最低限の物を置いておける場をつくって欲しい。泥棒の問題、管理の問題もあるが、他の自治体で例があれば、教えて欲しい。	平成26・27年度において大規模災害時に孤立し、救援が困難と予想される周辺13地区において、津波浸水リスクが少ない場所に地区住民と協議し防災倉庫を新設配備いたしました。その中で梶賀地区においては、備蓄倉庫設置場所より低い土地で生活される方に対して新設した防災倉庫内に1世帯づつのカラーボックスを設置し発災後最低限必要な衣類や生活必需品を備えておりますので紹介させていただきます。	防災危機管理室
51	曾根	大きな津波が来た時に持って逃げなければならないものを調べてリュックに詰めたが、それを持つと重くてとても逃げられない。賀田小学校も生徒数が減少しているので、教室も空いている。そこに置かせてもらえないのか。年に1回の防災訓練の時に中身を入れ替えさせてもらうとか、それ位、頭を柔らかくして考えてもらえないのか。前例がないというなら、それを尾鷲市が取り扱うような努力をしてもらえないのか。	学校の空き教室など施設面の状況を確認しながら、これを地区の防災面でのスペースとして活用することは有意義なことであると思います。個人ではなく、地区会などの組織として活用ルールを学校と協議しながら検討できるよう考えてまいります。	教育総務課

No.	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
52	九鬼	現在、市営バスは1日4回金額は800円、以前は200円だった。お客が少ない事もあるが、バスの小型化、回数の増加などで効率化すべきではないのか。九鬼内だけでも、手を挙げたら止まってもらえて、降りたい場所で降ろしてもらえると、というある程度臨機応変なやり方をしてもらえたら、そういう事も考えてもらいたい。	公共交通体系を維持継続するには、地域の実情や事業の採算性を勘案し、より多くの人利用しやすい、効率的で効果的な運行体系の構築が重要であり、料金体系についても、利用収入と運行経費の試算を行う必要があります。また、運行本数を増やすことで効率化を図ることについては、利用者数の試算を充分精査する必要もあり、現在の利用状況では大幅に運行本数を増加されることは難しいものと考えております。臨機応変な乗降につきましては、ふれあいバス自体が公共交通機関であることを踏まえ、停留所以外の乗降については運行上問題があることから、対応することはできませんのでご理解をお願いします。	市長公室
53	九鬼	真夏になると熱い湯が出る水道管への対応、修繕計画はどうなっているのか。	ご要望頂いた件につきまして、区長に相談し、現地で状況を確認させていただきました。水道管の被覆材が剥離した箇所が多くみられますので、修繕により対応し、解消に努めたいと考えております。	水道部
54	九鬼	街灯が切れた時、市に連絡すると、地区で設置したものと言われる事がある。設置したのが地区なのか、市なのか現場で分かるように目印をつけてほしい。	市では、平成23年度から平成27年度までの5ヶ年で「LED防犯灯整備事業」を実施し、市内全域の2,184基の防犯灯を全てLED防犯灯として整備しました。従いまして、現在、設置されている蛍光灯の防犯灯につきましては地区で設置したと判断して頂ければと思います。しかし、一部で設置者不明の防犯灯も存在しますので、市民サービス課までご連絡をいただいたうえで確認を取りたいと考えています。	市民サービス課
55	九鬼	数年前に設置を依頼した公衆トイレの進展状況はどうなっているのか。今年に何とかなるのか。	現在、当市においては厳しい財政状況の中、順次、市民生活に直結した施設の建替え、改修等をおこなっているところであります。これまで公衆トイレの設置につきまして、建設費用を抑えた方法など検討しましたが、公共建築としての耐久性も勘案した中で、それ相応の財源の確保、また浄化槽等の維持管理費用など後年度負担も発生するものと考えております。これらのことから、現在、様々な地域からの市への要望もある中で、今後の検討課題とさせて頂いております。	水産商工食のまち課
56	中央公	尾鷲中の給食は実現するのか。今後の見込みは。栄養面など子供の発育を考えても給食の方が良い。	尾鷲中学校の給食実施については、従来からの自校式で実施だけではなく、他校からの配食や民間からの配食方式のものも含めて実施に向けて検討していきたいと考えております。	教育総務課

No.	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
57	中央公	国民健康保険が県事業になった場合、今までとどの様になるのか。 保険料は高くなるのか。	国民健康保険事業については、低所得者や高齢者の割合が高い、事業を行う市町の財政基盤が不安定、単年度収支の赤字となっている自治体が多い(三重県では29市町中25市町)など、国民健康保険の財政運営が大変厳しい状況となっていることから、平成30年度から、都道府県が財政運営の責任主体となり、安定的な財政運営や効率的な事業の確保等の国保運営に中心的な役割を担うこととなったものです。基本的には資格の認定や国保税の賦課・収納については引き続き市町が行うこととなりますので、これまでと同じと考えています。保険料につきましては、現在、県において国からの支援策等を勘案し試算しているところであり、各市町の保険料が上がるのか下がるのか現時点では具体的な数値が示されていません。	市民サービス課